

2016年8月期業績 2017年8月期業績見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

CFOの岡崎です。
私から、2016年8月期の業績、および
2017年8月期の業績見通しについてご説明いたします。

目次

I. 2016年8月期 決算概要	P3	～	P19
II. 2017年8月期 業績予想	P20	～	P22
III. ご参考資料	P23	～	P25

【業績開示について】

- ・2014年8月期末より国際会計基準(IFRS)を適用、本資料上の数字については、すべてIFRSベースで記載しております。
- ・事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。
- ・各セグメントの構成は、以下のとおりです。
 - 国内ユニクロ事業： 国内ユニクロ事業の数値が表示されています。
 - 海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。
 - グローバルブランド事業： ジューシー事業、セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業が含まれています。
- ・連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

増収減益 通期の事業利益は8.3%減、下期は増益に転じる

単位：億円

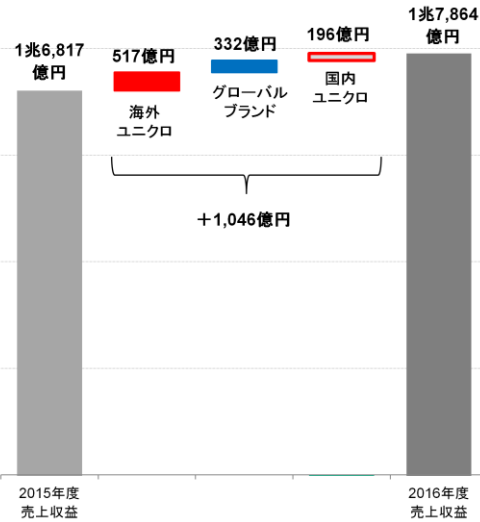
	2015年8月期 通期実績	2016年8月期						
		上期実績	前年同期比	下期実績	前年同期比	通期実績	前期比	直近予想 (7/14)
売上収益 (売上比)	16,817 100.0%	10,116 100.0%	+6.5%	7,748 100.0%	+5.8%	17,864 100.0%	+6.2%	18,000 100.0%
売上総利益 (売上比)	8,485 50.5%	4,769 47.1%	▲0.5% ▲3.4p	3,880 50.1%	+5.2% ▲0.3p	8,649 48.4%	+1.9% ▲2.1p	- -
販管費 (売上比)	6,718 39.9%	3,707 36.6%	+10.2% +1.2p	3,322 42.9%	▲1.0% ▲2.9p	7,029 39.3%	+4.6% ▲0.6p	- -
事業利益 (売上比)	1,766 10.5%	1,062 10.5%	▲25.8% ▲4.6p	558 7.2%	+66.7% +2.6p	1,620 9.1%	▲8.3% ▲1.4p	1,500 8.3%
その他収益・費用 (売上比)	▲122 -	▲68 -	-	▲278 -	-	▲347 -	-	-
営業利益 (売上比)	1,644 9.8%	993 9.8%	▲33.8% ▲6.0p	279 3.6%	+94.3% +1.6p	1,272 7.1%	▲22.6% ▲2.7p	1,200 6.7%
金融収益・費用 (売上比)	162 1.0%	▲173 -	-	▲197 -	-	▲370 -	-	▲370 -
税引前利益 (売上比)	1,806 10.7%	820 8.1%	▲49.9% ▲9.1p	81 1.1%	▲51.8% ▲1.2p	902 5.1%	▲50.1% ▲5.6p	830 4.6%
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	1,100 6.5%	470 4.7%	▲55.1% ▲6.3p	10 0.1%	▲80.9% ▲0.6p	480 2.7%	▲56.3% ▲3.8p	450 2.5%

2016年8月期の連結業績は、売上収益が1兆7,864億円、前期比6.2%増、減損損失や為替差損などを除いた、事業そのものの収益を示す事業利益が1,620億円、同8.3%減、営業利益が1,272億円、同22.6%減、親会社の所有者に帰属する当期利益が480億円、同56.3%減と、増収減益の結果となりました。

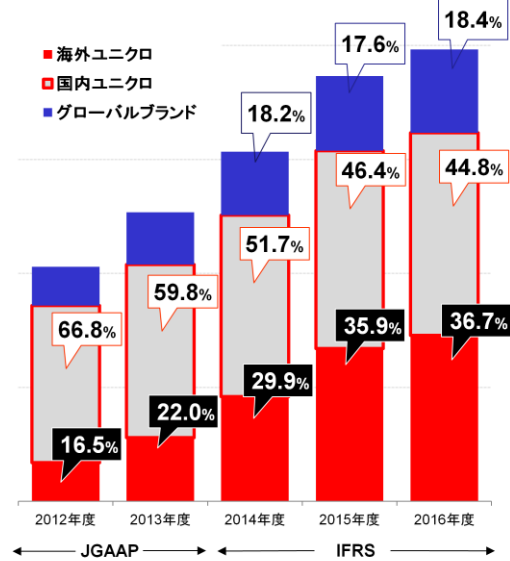
7月14日に発表いたしました業績予想に対して、事業利益、営業利益など、利益は達成することができました。

下期6ヵ月間の業績は、売上収益が前年同期比5.8%増、事業利益が同66.7%増、営業利益が同94.3%増と、大幅な増益に転じることができました。

売上収益1,046億円の増収

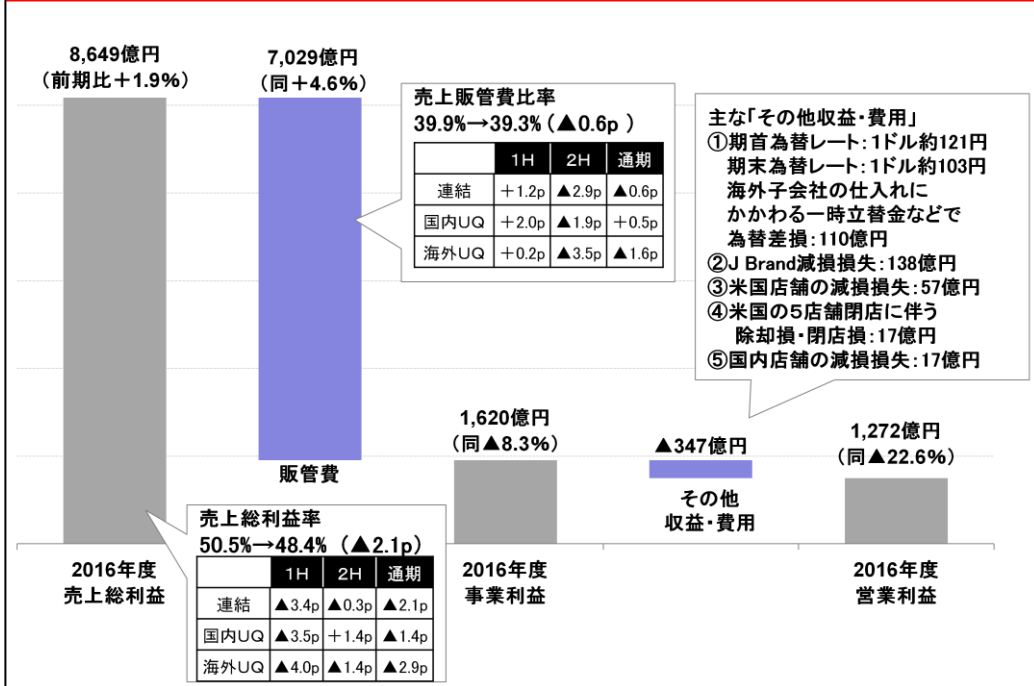


海外ユニクロの売上構成比が拡大



まず、売上収益ですが、1兆7,864億円と前期比6.2%増、1,046億円の増収となりました。その内訳としては、海外ユニクロ事業が517億円の増収、グローバルブランド事業が332億円の増収、国内ユニクロ事業が196億円の増収となっております。

海外ユニクロ事業の売上構成比は36.7%と、前期比で0.8ポイント拡大いたしました。



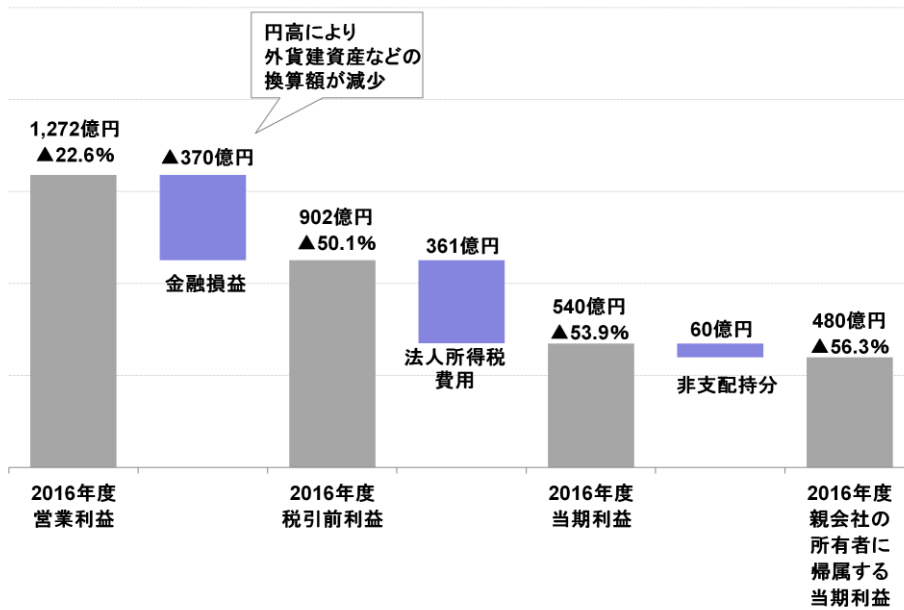
売上総利益は8,649億円と前期比1.9%の増益となりました。
 売上総利益率は48.4%と、同2.1ポイント低下しております。

販管費は7,029億円と同4.6%増、売上販管費比率は39.3%と同0.6ポイント低下いたしました。
 上期の販管費比率は、前年同期比1.2ポイント上昇したものの、
 下期は経費削減の効果により、同2.9ポイント減と大幅に改善いたしました。

売上収益から売上原価、販管費を除いた事業利益は1,620億円と同8.3%の減益となりました。

その他収益・費用の合計は347億円のマイナスでした。
 これは、期首の為替レート、1ドル約121円に比べ、期末の為替レートが1ドル約103円と円高になったため、海外子会社の仕入れにかかわる一時立替金などで為替差損が110億円発生したこと、J Brandの減損損失が138億円、米国店舗の減損損失が57億円、などが発生したことによります。

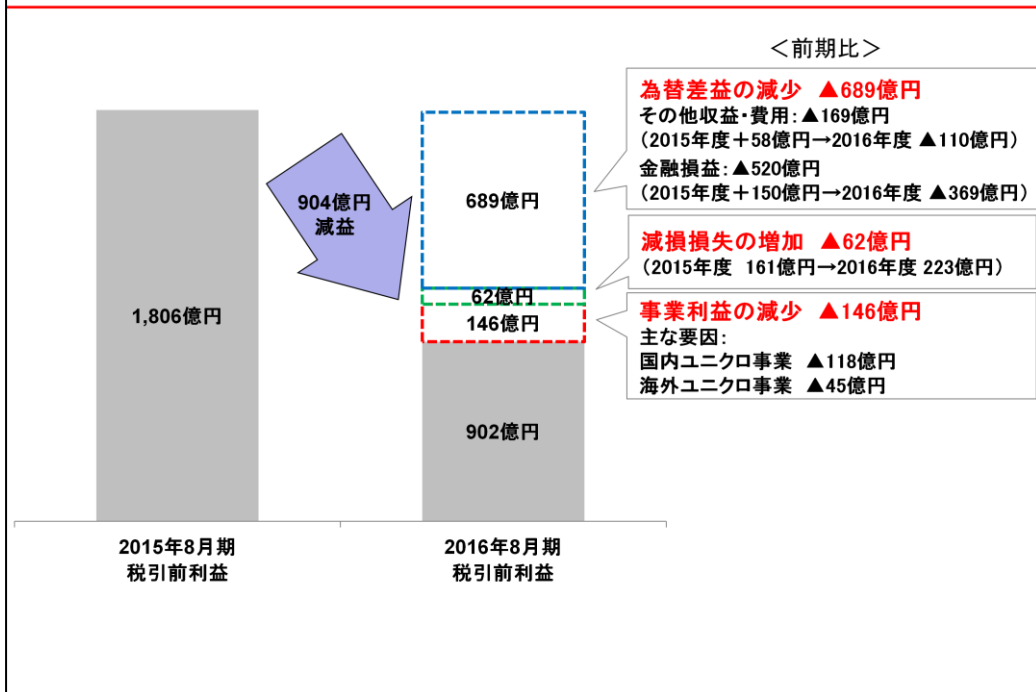
これらの結果、営業利益は1,272億円、同22.6%の減益となりました。



次に、金融損益ですが、期首に比べ、為替が円高になったことから、外貨建資産などの換算額が減少し、金融損益はネットで370億円のマイナスとなっております。

この結果、税引前利益は902億円と同50.1%減、親会社の所有者に帰属する当期利益は480億円、同56.3%減となりました。

【連結】2016年8月期 減益要因



2016年8月期の税引前利益は前期比904億円の大幅減益となりました。その要因分析としては、為替差益が差損に転じ、合計で同689億円減少したこと、減損損失が同62億円増加したこと、事業利益が同146億円減少したことによります。

単位：億円

		2015年8月期 通期実績	2016年8月期				通期実績	前期比
			上期実績	前年同期比	下期実績	前年同期比		
国内ユニクロ事業	売上収益	7,801	4,536	▲0.2%	3,461	+6.3%	7,998	+2.5%
	事業利益	1,156	636	▲28.2%	402	+48.8%	1,038	▲10.2%
	(売上比)	14.8%	14.0%	▲5.5p	11.6%	+3.3p	13.0%	▲1.8p
	その他収益・費用	15	5	▲39.3%	▲19	-	▲14	-
海外ユニクロ事業	営業利益	1,172	641	▲28.3%	383	+38.0%	1,024	▲12.6%
	(売上比)	15.0%	14.1%	▲5.6p	11.1%	+2.6p	12.8%	▲2.2p
	売上収益	6,036	3,892	+12.7%	2,661	+3.1%	6,554	+8.6%
	事業利益	507	325	▲24.7%	136	+80.6%	461	▲9.0%
グローバル ブランド事業	(売上比)	8.4%	8.4%	▲4.1p	5.1%	+2.2p	7.0%	▲1.4p
	その他収益・費用	▲73	▲31	-	▲56	-	▲87	-
	営業利益	433	294	▲31.4%	80	+15x	374	▲13.7%
	(売上比)	7.2%	7.6%	▲4.8p	3.0%	+2.8p	5.7%	▲1.5p
グローバル ブランド事業	売上収益	2,953	1,673	+12.9%	1,612	+9.6%	3,285	+11.3%
	事業利益	209	142	+15.3%	98	+15.2%	241	+15.2%
	(売上比)	7.1%	8.5%	+0.2p	6.1%	+0.3p	7.3%	+0.2p
	その他収益・費用	▲65	0	-	▲146	-	▲146	-
グローバル ブランド事業	営業利益	144	143	+21.9%	▲47	-	95	▲34.0%
	(売上比)	4.9%	8.6%	+0.7p	-	-	2.9%	▲2.0p

注：連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。
国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

セグメント別の業績は、8ページのスライドの通りです。

2016年8月期は、全セグメントで増収となったものの、営業利益は減益の結果となりました。

国内ユニクロ事業および海外ユニクロ事業は、上期では減益でしたが、下期には増益に転じております。

グローバルブランド事業は、上期では増益でしたが、下期にはJ Brandの減損損失138億円などを計上したことから減益となりました。

通期の営業利益は減益も、 下期は計画を上回る大幅増益

単位:億円

	2015年8月期 通期実績	2016年8月期					
		上期実績		下期実績		通期実績	
			前年同期比		前年同期比		前期比
売上収益 (売上比)	7,801 100.0%	4,536 100.0%	▲0.2%	3,461 100.0%	+6.3%	7,998 100.0%	+2.5%
売上総利益 (売上比)	3,833 49.1%	2,088 46.0%	▲7.2% ▲3.5p	1,730 50.0%	+9.3% +1.4p	3,818 47.7%	▲0.4% ▲1.4p
販管費 (売上比)	2,677 34.3%	1,452 32.0%	+6.4% +2.0p	1,327 38.4%	+1.2% ▲1.9p	2,780 34.8%	+3.8% +0.5p
事業利益 (売上比)	1,156 14.8%	636 14.0%	▲28.2% ▲5.5p	402 11.6%	+48.8% +3.3p	1,038 13.0%	▲10.2% ▲1.8p
その他収益・費用 (売上比)	15 0.2%	5 0.1%	▲39.3% ▲0.1p	▲19 -	- -	▲14 -	- -
営業利益 (売上比)	1,172 15.0%	641 14.1%	▲28.3% ▲5.6p	383 11.1%	+38.0% +2.6p	1,024 12.8%	▲12.6% ▲2.2p

注: 国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

スライド9ページからは、国内ユニクロ事業についてご説明いたします。
通期の売上収益は7,998億円、前期比2.5%増、
営業利益は1,024億円、同12.6%減となりました。

上期の減益幅が大きかったため、通期は減益となりましたが、下期では、
粗利益率、経費比率が改善し、営業利益は前年同期比38.0%の増益と、
収益を大きく改善することができました。
また、下期は7月に発表した計画を上回る増益を達成しております。

2016年8月期：売上収益7,998億円（前期比+2.5%）

- ・既存店売上高：前期比+0.9%（客数 ▲4.6%、客単価+5.8%）
- ・Eコマースの売上が421億円、同+30.1%と好調、売上構成比5.3%

- ・上期は暖冬の影響に加え、商品の新しさやニュース性をお客様へ伝えきれなかったことから、冬物商品の販売に苦戦し、既存店売上高は前年同期比1.9%の減収
- ・下期は、ジョガーパンツ、スカンツ、プリーツスカートなどのボトムスや、ウィメンズのブラウスなど、トレンドを取り入れた新商品に加え、エアリズム素材やドライ素材を使ったスポーツキャンペーン商品の販売が好調、下期の既存店売上高は同4.9%の増収
- ・下期では、客数は同2.6%の減少、上期に比べ減少幅は縮小、回復傾向
- ・客単価の上昇は、値引率の減少、比較的単価の高いボトムスの販売好調による
- ・“デジタルフラッグシップストア”は、この秋、商品面の拡充から徐々にスタート

直営既存店 前年比	2016年8月期							9月
	上期	3Q	6月	7月	8月	下期	通期	
売上高	▲1.9%	+2.8%	+4.5%	+18.1%	▲1.0%	+4.9%	+0.9%	▲3.4%
客数	▲6.3%	▲6.1%	▲3.6%	+8.1%	▲1.6%	▲2.6%	▲4.6%	+2.1%
客単価	+4.7%	+9.4%	+8.5%	+9.2%	+0.6%	+7.7%	+5.8%	▲5.4%

2016年8月末 直営店798店舗、前期末比▲13店舗、FC店39店舗、同+9店舗

国内ユニクロ事業の売上収益は、前期比2.5%増収となりました。これは主に、既存店売上高が前期比0.9%増となったこと、Eコマースの売上が421億円、同30.1%増と好調に伸びたことによります。Eコマースの売上構成比は5.3%となりました。

上期は暖冬の影響に加え、商品の新しさやニュース性をお客様へ伝えきれなかったことから、冬物商品の販売に苦戦し、既存店売上高は前年同期比1.9%の減収となりました。

下期は、ジョガーパンツ、スカンツ、プリーツスカートなどのボトムスや、ウィメンズのブラウスなど、トレンドを取り入れた新商品に加え、エアリズム素材やドライ素材を使ったスポーツキャンペーン商品の売上が好調で、販売に大きく寄与しました。その結果、下期の既存店売上高は同4.9%と増収に転じました。

既存店売上高の内訳は、客数で4.6%の減少、客単価で5.8%の増加となりました。

下期では、客数は同2.6%の減少、上期に比べ減少幅は縮小しており、回復傾向にあります。

客単価の上昇は、値引率の減少、比較的単価の高いボトムスの販売が好調だったことによります。

なお、“デジタルフラッグシップストア”ですが、この秋は、Eコマース特別商品、特別サイズの拡大など商品面の拡充から、徐々にスタートしております。また、今後、アプリの改善やさまざまなサービスを順次開始していく予定です。翌日配送など配送面のサービス刷新についても、お客様にご迷惑をおかけすることのないように万全の準備を進めている段階であり、これらを合わせ2017年春頃には、より一層サービスレベルを充実させた“デジタルフラッグシップストア”を本格的に体感して頂けるようになると考えております。

2016年8月期：売上総利益率 47.7%（前期比▲1.4p）

「毎日お買い求めやすい価格」戦略の定着により 値引率が改善

- ・上期は前年同期比3.5ポイントの低下、下期は同1.4ポイント改善、計画を上回る
- ・下期は、春夏シーズンより展開している「毎日お買い求めやすい価格」戦略の定着により、3Qに引き続き、4Qでも限定値引率が改善したこと、在庫処分による値引もコントロールすることができた

	2015年8月期	2016年8月期	
			前期比
通期	49.1%	47.7%	▲1.4p
上期	49.5%	46.0%	▲3.5p
下期	48.6%	50.0%	+1.4p

次に、売上総利益率ですが、通期で47.7%と前期比1.4ポイント低下いたしました。

上期の粗利益率は46.0%、前年同期比3.5ポイントの低下となった一方で、下期の粗利益率は50.0%、同1.4ポイントの改善と、計画を上回る水準となりました。

下期の粗利益率の改善は、この春夏シーズンより展開している「毎日お買い求めやすい価格」戦略の定着により、第3四半期に引き続き、第4四半期でも限定値引率が改善したこと、在庫処分による値引もコントロールすることができたためです。

2016年8月期：売上販管費比率 34.8%（前期比+0.5p）
下期は、計画を上回るペースで経費削減（前年同期比▲1.9p）

- ・通期は、物流費比率+0.8pにより、その他経費比率+0.5p、人件費比率+0.2p
- ・下期以降は全社をあげてローコスト経営に徹し、計画を上回るペースで経費削減
- ・下期の経費比率▲1.9p。広告宣伝費比率▲0.9p、人件費比率▲0.6p
- ・下期のその他経費比率+0.0p。有明倉庫の賃料と物流改革に伴う一時的費用増で物流費比率+1.0p、委託費などの本部費や消耗品費、水道光熱費を削減

単位：億円

	2015年8月期		2016年8月期			2016年8月期 上期		2016年8月期 下期	
	通期実績	(売上比)	通期実績	(売上比)	前期比	売上比	前年同期比	売上比	前年同期比
販管費合計	2,677	34.3%	2,780	34.8%	+0.5p	32.0%	+2.0p	38.4%	▲1.9p
人件費	840	10.8%	876	11.0%	+0.2p	9.7%	+0.7p	12.6%	▲0.6p
広告宣伝費	359	4.6%	357	4.5%	▲0.1p	4.3%	+0.4p	4.7%	▲0.9p
賃借料	539	6.9%	544	6.8%	▲0.1p	6.2%	▲0.1p	7.6%	▲0.2p
減価償却費	74	1.0%	71	0.9%	▲0.1p	0.8%	+0.0p	1.0%	▲0.2p
その他経費	863	11.1%	929	11.6%	+0.5p	10.9%	+0.9p	12.5%	+0.0p

通期の売上販管費比率は34.8%と、前期比0.5ポイント上昇いたしました。

これは、物流費比率が0.8ポイント上昇したことにより、物流費を含むその他経費比率が0.5ポイント上昇したこと、また、人件費比率が上期に地域正社員が増加した影響により、0.2ポイント上昇したことなどによります。

ただし、上期に経費が膨張した反省を踏まえ、下期以降は全社をあげてローコスト経営に徹し、下期では計画を上回るペースで経費を削減でき、下期の経費比率は同1.9ポイント改善することができました。

具体的には、広告宣伝費比率が同0.9ポイント減少、人件費比率も同0.6ポイント減少しております。

下期のその他経費比率は前年並みとなりました。これは、その他経費に含まれる物流費比率が有明倉庫の賃料および物流改革に伴う一時的な費用の増加により、同1.0ポイント上昇した一方で、委託費などの本部費や消耗品費、水道光熱費などを大きく削減したことによります。

通期は増収減益も、下期は大幅増益に転じる

- ・下期の業績は回復、計画を若干上回り、大幅な増益
- ・下期の増益幅が大きかったエリアは、グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア地区、欧州
- ・グレーターチャイナは通期で減益も、下期は計画を上回る大幅な増益
- ・米国は下期には事業利益が大幅に改善したものの、店舗の減損損失、除却損・閉店損を計上したことで、営業損失は前年同期比で拡大
- ・通期の売上収益は8.6%増、円高による押し下げ要因が約7%
- ・海外ユニクロ事業の8月末の店舗数は958店舗、+160店舗

単位：億円

	2015年8月期 通期実績	2016年8月期					
		上期実績	前年同期比	下期実績	前年同期比	通期実績	前期比
海外ユニクロ事業	6,036	3,892	+12.7%	2,661	+3.1%	6,554	+8.6%
売上収益	507	325	▲24.7%	136	+80.6%	461	▲9.0%
事業利益 (売上比)	8.4%	8.4%	▲4.1p	5.1%	+2.2p	7.0%	▲1.4p
その他収益・費用	▲73	▲31	-	▲56	-	▲87	-
営業利益	433	294	▲31.4%	80	+15x	374	▲13.7%
営業利益 (売上比)	7.2%	7.6%	▲4.8p	3.0%	+2.8p	5.7%	▲1.5p

次に、海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

通期の売上収益は6,554億円、前期比8.6%増、営業利益は374億円、同13.7%減と、増収減益となりました。

ただし、下期の業績は回復、計画を若干上回り、前年同期比で大幅な増益に転じております。

下期の増益幅が大きかったエリアは、グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア地区、欧州です。

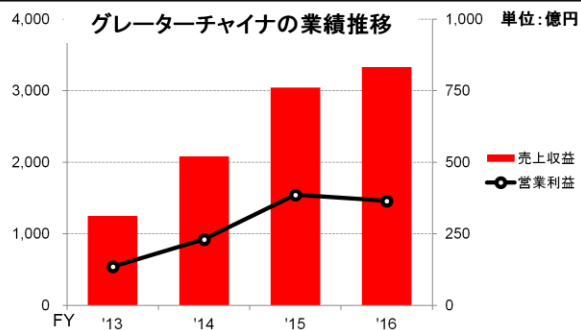
グレーターチャイナは、通期で減益となりましたが、下期は計画を上回る大幅な増益に転じております。

米国は、下期には事業利益が大幅に改善したものの、店舗の減損損失、除却損・閉店損を計上したことで、営業損失は前年同期比で拡大いたしました。

なお、通期の売上収益の伸び率は8.6%増にとどまっておりますが、これは円高による押し下げ要因が約7%あったことによります。

海外ユニクロ事業の8月末の店舗数は958店舗に達し、前期末比で160店舗の純増となりました。

- ・グレートチャイナ: 下期は計画を上回る大幅増益
 2016年8月期: 売上 3,328億円+9.3%、営業利益 365億円▲5.5%
- ・上期は暖冬の影響で減益、下期は計画を上回る大幅な増益
- ・中国の景気のスローダウンは、グレートチャイナの商売に影響を与えたものの、中国大陸では中産階級の人口増、ユニクロブランドの人気の定着により、影響は限定的
 2Qから既存店売上高が増収、経費削減の効果もあり、下期は計画を上回る大幅増益
- ・香港と台湾の営業利益は3Qまで減益、経費削減の効果で4Qからは若干の増益に転じる



次に、各エリアの業績トレンドについてご説明いたします。

グレートチャイナの通期の売上収益は3,328億円、前期比9.3%増、営業利益は365億円、同5.5%減と、増収減益となりました。上期は暖冬の影響で減益となりましたが、下期は計画を上回る大幅な増益を達成いたしました。

中国の景気のスローダウンは、グレートチャイナの商売に影響を与えたものの、中国大陸では、中産階級の人口増が続いていることや、ユニクロブランドの人気の定着により、景気の影響は限定的でした。中国大陸では、第2四半期から既存店売上高が前年同期比で増収に転じ、経費削減の効果もあり、下期は計画を上回る大幅な増益となりました。

香港と台湾の営業利益は、第3四半期まで減益が続きましたが、経費削減の効果もあり、第4四半期からは若干の増益に転じております。

なお、グレートチャイナの店舗数は、100店舗を出店、7店舗を閉店したことから、8月末で560店舗に達しております。

・韓国：通期は減収減益、計画を下回る

景気のスローダウンの影響、競合との競争激化により、計画を下回る業績が続く
下期から経費削減を進めたことにより、4Qでは若干の増益に転じる

・東南アジア・オセアニア地区：通期はほぼ計画通り増収増益

下期は各エリアで売上が好調、経費削減を実施したことから、大幅な増益
東南アジアは、各国で地元でのユニクロブランドの浸透が進み、通期でも大幅増益
オーストラリアは、急速に店舗網を拡大し、前年並みの若干の赤字を計上
2016年9月には、グローバル旗艦店オーチャードセントラル店をシンガポールに出店

・米国：通期の事業利益は改善も、減損・閉店損で営業損失が拡大

店舗減損損失57億円、5店舗の閉店に伴う除却損・閉店損17億円、合計74億円を計上し、営業損失は前期比で拡大
上期は、暖冬の影響による売上不振や在庫処分により、粗利益率が悪化、事業利益ベースでの赤字幅拡大
下期は、粗利益率、販管費比率が改善、事業利益は計画通り前年同期比で大幅改善

・欧州：通期は、ほぼ計画通りの増収増益

特にロシア、英国、フランスの増益が寄与
2015年10月にベルギーに初出店、2016年3月に英国のグローバル旗艦店をリニューアルオープンし、欧州全域で、着実にユニクロのプレゼンスを高める

次に韓国ですが、通期では減収減益の結果となりました。景気のスローダウンの影響と競争激化により、計画を下回る業績は続いております。

下期から経費削減を進めたことにより、第4四半期では若干の増益に転じました。

韓国における8月末の店舗数は173店舗となっております。

東南アジア・オセアニア地区の通期の業績はほぼ計画通り、増収増益となりました。

下期は各エリアで売上が好調だったことに加え、経費削減を実施したことから、大幅な増益となっております。

東南アジアは各国で、地元でのユニクロブランドの浸透が進み、通期でも大幅増益を達成しております。

オーストラリアは6店舗を出店し、期末の店舗数は12店舗と、急速に店舗網を拡大したことから、前年並みの若干の赤字を計上しております。

なお、2016年9月には、東南アジア初となるグローバル旗艦店 オーチャードセントラル店をシンガポールに出店し、ユニクロの知名度アップに貢献しております。

東南アジア・オセアニア地区の8月末の店舗数は144店舗となっております。

米国の通期の事業利益は、前期比で改善いたしました。

店舗減損損失57億円および、5店舗の閉店に伴う除却損・閉店損17億円、合計74億円を計上したことにより、営業損失は前期比で拡大いたしました。

上期は、暖冬の影響による売上不振や、在庫処分を進めたことで、粗利益率が悪化、事業利益ベースの赤字幅は拡大いたしました。下期は粗利益率、販管費比率が改善したことにより、事業利益は計画通り、前年同期比で大幅な改善となっております。

米国の8月末の店舗数は45店舗となっております。

欧州は、ほぼ計画通りの増収増益となりました。特にロシア、英国、フランスの増益が寄与しております。今期は、2015年10月にベルギーに初出店、2016年3月に英国のグローバル旗艦店をリニューアルオープンし、欧州全域で、着実にユニクロのプレゼンスを高めております。欧州における8月末の店舗数は36店舗に達しております。

営業利益は減益も、事業利益は増益

- ・事業利益は計画を若干下回る
- ・ジーユー事業：計画通り大幅な増収増益を達成
2016年8月期：売上1,878億円+32.7%、営業利益222億円+34.8%
ウィメンズのトレンド商品の販売が好調で、下期も既存店売上高は2桁増収
- ・セオリー事業：売上は前年並み、営業利益はほぼ計画通りの増益
- ・コントワー・デ・コトニエ事業：計画を若干下回る減益、赤字
- ・プリンセス タム・タム事業：計画を若干下回り、赤字継続
- ・J Brand事業：赤字が継続、減損損失138億円を計上

単位：億円

	2015年8月期	2016年8月期						
		通期実績	上期実績	前年同期比	下期実績	前年同期比	通期実績	前期比
グローバル ブランド事業	売上収益	2,953	1,673	+12.9%	1,612	+9.6%	3,285	+11.3%
	事業利益	209	142	+15.3%	98	+15.2%	241	+15.2%
	(売上比)	7.1%	8.5%	+0.2p	6.1%	+0.3p	7.3%	+0.2p
	その他収益・費用	▲65	0	-	▲146	-	▲146	-
	営業利益	144	143	+21.9%	▲47	-	95	▲34.0%
	(売上比)	4.9%	8.6%	+0.7p	-	-	2.9%	▲2.0p

グローバルブランド事業の売上収益は3,285億円、前期比11.3%増、
営業利益は95億円、同34.0%減と、増収減益となりました。

J Brand事業の減損損失などを計上したことで、営業利益は減益となりましたが、
事業利益は増益となっております。なお、事業利益は計画に対して、若干下回る
結果となりました。

ジーユー事業の売上は1,878億円、前期比32.7%増、営業利益は222億円、
同34.8%増と、計画通り大幅な増収増益を達成いたしました。
ニット、ロングT、スカンツ、ワイドパンツといった、ウィメンズのトレンド商品の
販売が好調だったことにより、上期に引き続き、下期も既存店売上高は
2桁増収となりました。

8月末の店舗数は、国内で340店舗、海外では上海および台湾で10店舗まで
拡大しております。

セオリー事業は、売上は前年並み、営業利益はほぼ計画通りの増益となりました。

コントワー・デ・コトニエ事業は、営業利益は計画を若干下回る減益、赤字
となりました。

プリンセス タム・タム事業は、計画を若干下回り、赤字が継続しております。

J Brand事業は、赤字が継続し、減損損失138億円を計上いたしました。

単位：億円

	2015年8月期末	2016年8月期末	増 減
資産合計	11,637	12,381	+744
流動資産	8,743	9,245	+501
非流動資産	2,893	3,135	+242
負債合計	3,889	6,404	+2,515
資本合計	7,748	5,976	▲1,771

次に2016年8月期末のバランスシートのご説明をいたします。

資産合計は1兆2,381億円と、前期末比744億円増加いたしました。これは、流動資産が同501億円増加したこと、および非流動資産が同242億円増加したためです。

負債は社債を発行したこと、デリバティブ金融負債が増加したことなどにより、同2,515億円増加し、6,404億円となっております。

資本合計は、主にデリバティブ金融資産の評価額の減少により、同1,771億円減少し、5,976億円となっております。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

流動資産の増加 +501億円(8,743億円⇒9,245億円)

- ・現金及び現金同等物の増加: +302億円(3,552億円⇒3,854億円)
その他の短期金融資産の増加: +1,616億円(225億円⇒1,842億円)
2015年12月の社債発行にともなう現金の増加、および営業キャッシュ・フローの増加
- ・たな卸資産の増加: +100億円(2,600億円⇒2,700億円)
【国内UQ】+38億円 【海外UQ】▲13億円 為替の影響、一部のエリアで在庫をコントロール
【グローバルブランド】+73億円 ジューシー事業の事業拡大による在庫増
- ・デリバティブ金融資産の減少: ▲1,569億円(1,574億円⇒5億円)
保有する為替予約の平均レートが、期末の為替レートより円安となったことにより、
デリバティブ金融資産が負債に転じる。ヘッジ会計を適用していることから、損益への影響はない

非流動資産の増加 +242億円(2,893億円⇒3,135億円)

- ・繰延税金資産の増加: +333億円(111億円⇒444億円)
- ・無形資産の減少: ▲160億円(681億円⇒521億円) J Brandの減損損失など

負債の増加 +2,515億円(3,889億円⇒6,404億円)

- ・2015年12月 2,500億円の社債を発行
- ・デリバティブ金融負債の増加: +722億円(1億円⇒723億円)
- ・繰延税金負債の減少: ▲434億円(472億円⇒38億円)

まず、流動資産が501億円増加した要因をご説明いたします。
現金及び現金同等物は3,854億円と、前期末比302億円増加したのに加え、
3ヶ月超の定期預金など流動性の高い、その他の短期金融資産が1,842億円と
同1,616億円増加しております。これは、2015年12月の社債発行にともない
現金が増加したこと、営業キャッシュ・フローが増加したことによります。

たな卸資産は2,700億円と、同100億円増加しております。
国内ユニクロ事業の在庫は、同38億円増加しておりますが、特に問題ない水準です。
海外ユニクロ事業の在庫は、同13億円減少いたしました。これは、為替の影響および、
韓国、香港など一部のエリアで在庫をコントロールしているためです。
グローバルブランド事業の在庫は、同73億円増加しております。これは、ジューシー事業の
事業拡大に伴って在庫が拡大したことによります。

デリバティブ金融資産は、資産側で5億円と同1,569億円減少いたしました。
これは、保有する為替予約の平均レートが、期末の為替レートより円安となったことにより、
デリバティブ金融資産が負債に転じたためです。
国内ユニクロ事業などでは、長期的なヘッジ方針に従って為替予約を行っております。
なお、ヘッジ会計を適用していることから、損益への影響はございません。

非流動資産は、同242億円増加しております。
これは、繰延税金資産が333億円増加した一方で、2016年8月期末にJ Brandなどの減損損失を
計上したことなどにより、無形資産が160億円減少したことによります。

負債は、同2,515億円増加しております。これは、2015年12月に総額2,500億円の社債を
発行したこと、デリバティブ金融負債が722億円増加した一方で、繰延税金負債が434億円
減少したことによります。

単位:億円			
	2015年8月期 実績	2016年8月期 実績	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	+1,349	+987	
税引前利益	+1,806	+902	ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献
減価償却費およびその他の償却費	+377	+367	
減損損失	+161	+223	2015年8月期:システム関連、J Brand、店舗等の減損損失161億円 2016年8月期:J Brand、店舗等の減損損失223億円
運転資金の増減額	▲333	▲186	仕入債務の増加 棚卸資産の増加
法人税等の支払・還付	▲708	▲705	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲731	▲2,459	
定期預金の増減額(▲は増加)	▲161	▲1,865	3ヵ月超の定期預金が増加
有形固定資産の取得による支出	▲446	▲341	出店拡大に伴う投資
無形資産の取得による支出	▲65	▲94	システム投資など
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲417	+2,014	
配当金の支払額	▲331	▲367	期末配当金1株当たり175円、 中間配当金185円の支払
社債の発行による収入	-	+2,493	2015年12月に社債を発行
現金及び現金同等物に係る換算差額	+211	▲240	
現金及び現金同等物の増加額	+411	+302	
現金及び現金同等物 期首残高	3,140	3,552	
現金及び現金同等物 期末残高	3,552	3,854	

次に、2016年8月期のキャッシュ・フローについてご説明いたします。

営業活動によるキャッシュ・フローは、987億円の収入となりました。
これは、ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献902億円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは2,459億円の支出となりました。
支出の主な内訳としては、定期預金の増加で1,865億円、
有形固定資産の取得で341億円、システム投資などによる無形資産の取得で
94億円となっております。
定期預金が1,865億円増加した主な要因は、2015年12月に社債発行で調達した現金
の一部と余剰資金の一部を3ヶ月超の定期預金として預け入れたためです。
定期預金は前期に比べ大幅に増加いたしました。この資金1,865億円は実質的に
は流動性が高い資金と言えます。

なお、2016年8月期の設備投資は523億円、内訳としては、
国内ユニクロ事業で45億円、海外ユニクロ事業で268億円、
グローバルブランド事業で84億円、システム投資などで126億円と
なっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、2,014億円の収入となりました。
主な内訳としては、配当金の支払額367億円の支出に対して、社債発行による収入
2,493億円になります。

以上の結果、2016年8月末における現金及び現金同等物の期末残高は
3,854億円となり、これに定期預金など、その他の短期金融資産1,842億円を加えた
流動性が高い金融資産は5,696億円となっております。

売上収益 : 1兆8,500億円 前期比 +3.6%
事業利益 : 1,800億円 前期比 +11.1%
営業利益 : 1,750億円 前期比 +37.5%
 親会社の所有者に
 帰属する当期利益 : 1,000億円 前期比 +108.1%

	2016年8月期	2017年8月期	
	通期実績	通期予想	前期比
売上収益 (売上比)	17,864 100.0%	18,500 100.0%	+3.6%
事業利益 (売上比)	1,620 9.1%	1,800 9.7%	+11.1% +0.6p
その他収益・費用	▲347	▲50	-
営業利益 (売上比)	1,272 7.1%	1,750 9.5%	+37.5% +2.4p
金融収益・費用	▲370	0	-
税引前利益 (売上比)	902 5.1%	1,750 9.5%	+93.9% +4.4p
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	480 2.7%	1,000 5.4%	+108.1% +2.7p

単位: 億円

ここからは、2017年8月期の通期業績予想につきまして、ご説明いたします。

売上収益は1兆8,500億円、前期比3.6%増、

事業利益は1,800億円、同11.1%増となる見込みです。

その他収益・費用は、店舗除却損・閉店損など50億円の費用を見込んでいるため、営業利益は1,750億円、同37.5%増を見込んでおります。

金融収益・費用は、前期ではネットで370億円のマイナスとなりましたが、

今期の予想には、期初の為替レート103円を前提として、現段階では為替換算差損益を見込んでいないため、親会社の所有者に帰属する当期利益は1,000億円、前期比で倍増となる見込みです。

国内ユニクロ事業：増収増益

- ・「既存店＋Eコマース」の売上高は約2.0%増収、店舗は横ばい、Eコマースは約4割増収
- ・粗利益率は前年並みを予想、経費削減により、営業利益率は若干の改善を見込む

海外ユニクロ事業：売上は若干の増収、営業利益は大幅な増益

- ・連結取込為替レートが円高により、1割強の押し下げ要因
- ・グレーターチャイナ、韓国は為替の押し下げ要因で、若干の減収、営業利益は増益
- ・東南アジア・オセアニアは増収増益、欧州は出店が拡大するため、営業利益は横ばい
- ・北米の赤字幅は大幅改善を見込む
- ・米国などでの店舗閉店やS&Bに伴う除却損・閉店損を合計で約35億円見込む

グローバルブランド事業：売上は増収、営業利益は大幅な増益

- ・ジーユー事業は約40店舗の出店を計画、増収増益を見込む
- ・セオリー事業は増収増益、コントワー・デ・コトニエ事業は黒字転換をめざす
- ・プリンセス タム・タム事業、J Brand事業は前年並みの業績を予想

海外ユニクロ事業 出店予想	
グレーターチャイナ	約100店舗
韓国	約10店舗
東南アジア・オセアニア地区	約30店舗
北米	約6店舗
欧州	約20店舗
合計	約166店舗

国内ユニクロ事業 出店予想	
合計	約30店舗

グローバルブランド事業 出店予想	
GU事業	約40店舗
セオリー事業	約20店舗
合計	約60店舗

次に、各事業の業績トレンドを申し上げます。

まず、国内ユニクロ事業ですが、通期で増収増益を予想しております。「既存店＋Eコマース」の売上高は約2.0%の増収を見込んでおります。この内訳としては、店舗の既存店売上高を横ばい、Eコマースは約4割増収としております。

粗利益率は、「毎日お買い求めやすい価格」戦略を継続することにより、前年並みを予想しております。

また、引き続き経費削減を行い、販管費比率を改善させることで、通期の営業利益率は若干の改善を見込んでおります。

海外ユニクロ事業の売上は若干の増収、営業利益は大幅増益を予想しております。若干の増収に留まる要因としては、連結取込為替レートが円高により1割強の押し下げ要因となるためです。

エリア別の業績トレンドとしては、グレーターチャイナ、韓国が、為替の押し下げ要因により若干の減収、営業利益は増益を見込んでおります。東南アジア・オセアニアは増収増益、欧州は出店が拡大するため営業利益は横ばい、米国とカナダを含む北米の赤字幅は大幅に改善することを見込んでおります。

なお、海外ユニクロ事業では、米国などでの店舗閉店やスクラップ&ビルドに伴う除却損・閉店損を合計で約35億円見込んでおります。

グローバルブランド事業は増収、営業利益は大幅な増益を予想しております。ジーユー事業は約40店舗の出店を計画しており、増収増益を見込んでおります。セオリー事業は増収増益、コントワー・デ・コトニエ事業は黒字転換をめざし、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業は前年並みの業績を予想しております。

2016年8月期 配当金予想

2016年8月期 年間配当金 350円を予定
2017年8月期 年間配当金 350円を見込

	1株当たり配当金		
	中間	期末	通期
2015年8月期	175円	175円	350円
2016年8月期 ※1	185円	165円	350円
2017年8月期 ※2	175円	175円	350円

※1 2016年8月期の期末配当金は、2016年11月4日開催予定の当社取締役会での決議を前提としています。

※2 業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、配当金額を変更することがあります。

最後に、配当金についてご説明させていただきます。

2016年8月期の配当金は、期末配当金165円を含み、1株当たりの年間配当金350円を予定しております。

2017年8月期の配当金につきましては、中間配当金175円、期末配当金175円、あわせて年間で350円、前期と同額の配当金を見込んでおります。

以上で、私からの説明を終わります。ありがとうございました。

連結対象会社別出退店 実績と予想

【単位：店舗】	15年8月期 期末	2016年8月期(2015/9～2016/8)実績			2017年8月期(2016/9～2017/8)予想				
		出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1,639	212	56	+156	1,795	196	50	+146	1,941
国内ユニクロ事業：※	841	36	40	▲4	837	30	30	+0	837
直営店	811	27	40	▲13	798	-	-	-	-
大型店	208	7	10	▲3	205	-	-	-	-
標準店等	603	20	30	▲10	593	-	-	-	-
FC	30	9	0	+9	39	-	-	-	-
海外ユニクロ事業：	798	176	16	+160	958	166	20	+146	1,104
中国	387	92	7	+85	472	-	-	-	-
香港	25	0	0	0	25	-	-	-	-
台湾	55	8	0	+8	63	-	-	-	-
韓国	155	20	2	+18	173	-	-	-	-
シンガポール	23	2	1	+1	24	-	-	-	-
マレーシア	25	10	0	+10	35	-	-	-	-
タイ	23	9	0	+9	32	-	-	-	-
フィリピン	23	9	0	+9	32	-	-	-	-
インドネシア	8	1	0	+1	9	-	-	-	-
オーストラリア	6	6	0	+6	12	-	-	-	-
米国	42	8	5	+3	45	-	-	-	-
英国	9	1	0	+1	10	-	-	-	-
フランス	8	2	0	+2	10	-	-	-	-
ロシア	8	4	1	+3	11	-	-	-	-
ドイツ	1	2	0	+2	3	-	-	-	-
ベルギー	0	2	0	+2	2	-	-	-	-
グローバルブランド事業合計	1,339	99	73	+26	1,365	60	30	+30	1,395
ジーユー事業	319	50	19	+31	350	-	-	-	-
セオリー事業※	504	39	13	+26	530	-	-	-	-
コントワー・デ・コトニエ事業※	368	7	27	▲20	348	-	-	-	-
プリンセス・タム・タム事業※	145	3	11	▲8	137	-	-	-	-
J Brand 事業	3	0	3	▲3	0	-	-	-	-
総 合 計	2,978	311	129	+182	3,160	256	80	+176	3,336

注：ミーナ事業、グラミンユニクロ事業の店舗は含まない ※フランチャイズ店を含む

為替レート

連結取込 為替レート(12ヶ月平均)

単位: 円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2015年8月期 通期(12ヶ月平均)実績	117.3	137.1	183.1	18.9	10.7
2016年8月期 通期(12ヶ月平均)実績	115.1	127.2	167.4	17.7	9.8
2017年8月期 通期(12ヶ月平均)予想	102.0	114.0	138.0	15.4	8.9

バランスシート適用 為替レート

単位: 円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2015年8月期 期末為替レート 実績	121.2	136.0	186.9	18.8	10.2
2016年8月期 期末為替レート 実績	103.2	114.9	134.9	15.4	9.2
2017年8月期 期末為替レート 予想	103.2	114.9	134.9	15.4	9.2

設備投資・減価償却費

単位：億円

	設備投資	減価償却費
2015年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	624	377
2016年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	523	367
2017年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	465	384

設備投資の内訳

単位：億円

	国内 ユニクロ	海外 ユニクロ	グローバル ブランド	システム他
2015年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	86	377	89	71
2016年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	45	268	84	126
2017年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	26	198	96	145